

蓮沼執太『メロデイズ』発売中です



写真 後藤武浩

電子音楽家としてキャリアをスタートさせた蓮沼執太は、4作目の『POP OOGA』（2008年）あたりからそのポップセンスが一気に開花し、アンビエントやエレクトロニカといったひとところのジャンルに収まりきらない音楽を次々と生み出していった。それらはシンプルな言葉では到底語りえないもので、蓮沼が自身の可能性を探求していくプロセスは、そのまま音楽の可能性の拡張に繋がっていったように思う。蓮沼の新しい作品を聴くたびに、未知の、フレッシュな出会いが約束された。

『POP OOGA』以降は、5人組のバンド「蓮沼執太チーム」を編成し、ライブ録音から組み立てていった『wannapunch』（2010年）を作り上げた。パレットに無限の音色があつた宅録に、楽器を演奏する人数の制限を設けることで、打ち込みだけでは表現し切れない「グルーヴ」のワンダーが提示されていた。

チームの人数制限を取り払い、必要とする音色を集めていったら15人という巨大な編成になった「蓮沼執太フィル」での『時が奏でる』（2014年）では、音が折り重なることで描く「ハーモニー」のマジックを追い求めた。スティールパンやラップのヴォーカルを含む特殊なオーケストラが織りなす音楽体験を、ほかで得ることができただろうか？

未発表曲や新録曲に加え、イベント、映画、展示、ファッションショーや芝居のために制作した音楽などを一挙に集めた4枚組の『COOO』（2012年）がカバーする範囲は多岐に及ぶが、あえて言うなら「サウンド」や「時間軸」に焦点を当てた作品だったように思う。

もちろんこれは僕個人の見立てだし、それぞれの作品の特徴として挙げた要素は互いに不可分なもので、たとえば『wannapunch』にハーモニーがないというところではないので、あしからず。ともかく、蓮沼の作品は、とりわけ『POP OOGA』以降は同傾向のものがひとつとしてなく、それぞれここが特徴だとはつきりと指摘できるポイントがあるというわけだ。

そこで今回の『メロデイズ』である。これは、タイトルそのものずばり「メロデー」、つまり「歌」にフォーカスしたポップス・アルバムとなった。そこかしこに聞こえてくるのは歌、歌、歌である。

蓮沼がここまで正面から歌に向き合ったのは初めてのこと。これまで、彼に対し、自身の歌や声に関して質問をする機会が何度かあったが、照れもあつてなのか、いつもはぐらかされてしまっていた。歌う人がいないから自分でやっていると話すときもあった。しかし、ライブやリリースを重ねることに、蓮沼の歌の存在感は徐々に増していった。いわゆる楽器的な、音色のひとつとしての歌声ではなく、シンガー然とした存在感のある歌声がいつしか宿るようになっていた。

ポップ・ソングに取り組もうと思った本当の理由はわからない。近年の坂本美雨や赤い公園、Nogginなどのプロデュース・ワークもそこに向かわせた一因かもしれない。なんにせよ、旺盛な探求欲がついにメロディーに、自身の歌に向かったことを大歓迎したい。あの、柔らかく、少しすすめたような歌声は、じつに魅力的なのだ。

イメージレーションの広がる歌詞の表現もまた進化しているし、もちろんアレンジには蓮沼執太としか言いようのない作家性がばっちりと刻まれている。聴いていて朗らかな気持ちになれるのは彼の作品すべてに通底していることが。これまでの数々の取り組みで吸収してきたものがひとつずつ結びつき、螺旋状に円を描きながらこの『メロデイズ』に辿り着いたのだと感じる。すべてが代表作と言ってもいいほど常に力のこもった作品を送り出してきた蓮沼だが、今回も間違いなく彼の代表的な一枚となるだろう。……と、長々書いてきましたが、普通に売れてもらって、テレビの歌番組とかにも出てほしいなと思ってます！ まじ名盤いいー!!

南波一海（なんは・かずみ）

音楽ライター。ライブのレコーディングやインタビュー、解説執筆など、色々な形で蓮沼作品に関わらせてもらっています。一緒にポッドキャストをやったりも。

蓮沼執太による

アルバム『メロディーズ』解説

1 アコースティックス

作詞・作曲：蓮沼執太

口笛のメロディーからアルバムがはじまります。口の楽器である口笛はとても身体的にメロディーを奏でることが出来ます。僕の場合、メロディーが浮かんだら、すぐにRECボタンを押してマイクに口笛を録音することも多いです。このフレーズもそうやって出来ていったものです。自分と音を繋げることが口からの口笛や声にはあるんじゃないかな。J-WAVE『Acoustic County』でヴォーカルのレスのバージョンが使用されていて、平日このメロディーを聴くことが出来ます。「アコースティックス」は音響的な効果や音の聴こえることを意味します。僕が手に持っている2つの地球に、どうやって音楽を響かせようか？

2 一点

作詞・作曲：鴨田潤 / 作曲：蓮沼執太

2014年にニューヨークに住んでいました。その時にイルリメさんが遊びに来てくれて、観光と一緒にしたりしました。彼とデザイナーの大原大次郎さんの3人で「pogBAPY（タイポグラフィ）」というユニットを組んでいます。文字や音楽を使って、普段とは違う方法で作品制作をするユニットです。楽曲も既に何曲もあるのですが、普通にメロディーから曲を作ったことがなかったんです。この曲はマイクとレコーダーを使い、声から音楽を作りはじめる起点となった楽曲です。ニューヨークにいる僕がメロディーを作り、イルリメさんがコーラスで参加しています。

3 フラッペ

作詞・作曲：蓮沼執太

ちかごろ、以前にもまして喫茶店が少なくなってカフェが増えていすよね。そんなカフェ代表の「スターバックス」の新作フラベチーノ発表の大きなショーに何回か出演したことがあります。2015年のショーでは音楽監督として参加しまして、その時に作曲した音楽がこの曲です。友人のファッシュンデザイナー堀内太郎さんから誘われたプロジェクトで、ショーに出演するモデルさんに歌ってもらえたら良いなあ、というリクエストで作りました。歌詞はスタバでフラベチーノを飲みながら書きました。

4 RAW TOWN

作詞：鴨田潤 / 作曲：蓮沼執太

2015年にBillboard Live Tokyoで行ったイヴェント『蓮沼執太のメロディーズ』のために書き下ろした新曲です。このイヴェントは全曲新曲公演という、色々とチャレンジングな要素が多いコンセプトで、ゲストに「起点」でも登場したイルリメさんを迎えて歌って頂きました。音楽はほぼ完成していたので、歌詞と一緒に作るう！ということになり、東京駅で待ち合わせて、東京を徘徊していきました。様々な土地をフィールドワークしながら移動するのは初めてで新鮮でした。生のきみに会いにくって。結果、2016年の東京を歌う曲になりました。コーラスで参加してくれたのは、坂本美雨さんです。

5 ハミング

作詞・作曲：蓮沼執太 / ストリングスアレンジ：徳澤青弦

僕の1stアルバムで「Kunono」という曲があります。僕がレコーディング用のアルバムのために初めて書いたメロディーだと思っています。当時は複雑なプロセスで音色を作ったんですが、今回はそれを自分で歌おうと思いました。歌詞をつけて。メロディーというコンセプトで再度作り直してみると僕も変わるし、音楽も変わるわけですが、絶対に変わらない部分があると確信出来たことが大きな収穫でした。こ

うやってひとつひとつ音楽作っていくと吸収することがあるからヤメられない。

6 テレポート

作詞：蓮沼執太 / 作曲：コトリンゴ / 蓮沼執太

2015年にコトリンゴさんと共作で「My Philosophy」という楽曲を作りました。2人でメールのやり取りをして作曲したのですが、最初に僕がこのサビになるメロディーを送ったんです。そこから肉付けするようにコトリンゴさんが他の部分のメロディーを作曲してくれました。その僕が最初に作ったサビを使って、リアレンジしたのがこの曲です。録音から完成までほぼ一人で作ったんですが、J-zhanがタブラを擦る音をビートのハットに使っています。

7 クリーム貝塚

作詞・作曲：蓮沼執太

メロディーがオンパレードのアルバムなわけなのですが、やっぱり僕はシンガーソングライターではありません。作り終えるとそのことが良くわかりました。でも諦めているわけではなくて、僕なりのメロディーを使う音楽が作れたことをとても嬉しく思っています。何が言いたいかというと（笑）、僕が作ったメロディーは僕が歌っても良いのだけど、違う人にも歌ってほしい、ということです。この曲は僕が日本語で歌う音楽を研究しているときに影響を受けた方のために書いた曲です。いつか歌ってくれますように。「クリーム貝塚」の意味ですが、夢の中で貝塚に見学しに来ていて、その端っこにブクブクと泡のような白いクリームが出ていて、なんと貝塚を飲み込んでしまったからです。夢から覚めて、すぐにメモしたのが「クリーム、貝塚」でした。

8 ストローク

作詞・作曲：蓮沼執太

冒頭からのコーラスはNegocoです。彼女たちの真つずぐなコーラスにのってメロディーが散歩していきます。2012年に無印良品MUJIのクリスマスの音楽を作って、その時に作った曲をベースにして作曲しました。僕は前に使った曲をずっとアレンジし続けて、現代でも聴けるようにしてしまします。その時々々の環境や状況に合わせて、自分の楽曲をチューニングしていくんですよね。その最新版がこの「ストローク」です。

9 ニュー

作詞・作曲：蓮沼執太

夜中発の飛行機のフライトの時に浮かんだメロディーでした。こっそりハンディレコーダーを取り出して、コンコンと小さい声で歌ったのをレコーディングしました。音楽的には結構複雑な展開にしてみましたのですが、細かい電子音やボエトリリーディングなど色々な要素が詰まっています。丁寧にメロディーを扱ってきたものの、やはり音響的な部分に集中してしまします。どんなに僕らが頑張っても、再生される響き自体を保存することはできません。決して届かないことだからこそ、探求しがいがあるものなんです。

10 TIME

作詞：山田光太 / 蓮沼執太 / 作曲：木下美紗都 / 蓮沼執太 / ストリングスアレンジ：徳澤青弦

2012年に作った舞台作品（シアターピース）での一曲。1分で行の詩を読むという60分の作品でした。詩人、俳優、ダンサー、美術家、照明家、音楽家など様々なメンバーが舞台上でパフォーマンスを行う作品でした。そのひとつのシークエンスでこの楽曲のプロタイプがありました。僕にとつてこの作品はとても大切で、その時に誕生したこのメロディーも大事なものでした。そのメロディーを自らが歌うことで音盤に落とし込みました。ある意味で作品へのレクイエム、というか成仏のような？そういう気持ちがこの曲にはあります。作詞は山田光太さん、作曲は木下美紗都さん。上演された原曲に僕がアルバム用に追加でメロディーを足しました。

蓮沼執太『メロディーズ』

2016年2月3日発売



3,024円(税込) DDCB-13031 発売元: B.J.L. X AWARD/LR2

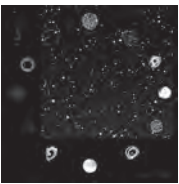
【参加ミュージシャン】

蓮沼執太	(VOCALS KEYBOARDS SYNTHESIZERS ELECTRONICS)
石塚周太	(GUITAR)
千葉広樹	(BASS)
千住宗臣	(DRUMS)
ゴンドウトモヒロ	(EUPHONIUM)
吉野友加	(HARP)
宮地夏実	(FLUTE)
藤堂昌彦	(MOUN)
徳永友美	(MOUN)
坂口弦太郎	(MOLA)
徳澤青弦	(CELO)
坂本美雨	(CHORUS)
NEGICO	(CHORUS)
イルリメ	(CHORUS)
J-zhan	(TABLA)

【配信限定シングル】

『起点 with イルリメ+大原大次郎 (「pogBAPY」)』
『TIME with YIRAN』

Times Store / Apple Music (無料配信中)



蓮沼執太の

メロディーズ・ツアー 2016

2016年	
3月19日④	札幌 OTO TO TABI (フェスティバル出演)
3月26日④	福岡 ROOMS
4月24日⑩	東京 Billboard Live Tokyo
5月14日④	名古屋 森、道、市場 2016 フェスティバル出演
	……以降、大阪・沖縄公演を予定

TRAVELING MELODIES PROJECT

「メロディーズ」は、あなたのデジアイスを飛び出し、日本全国へ旅を始めます。

2015年4月にBillboard Live Tokyoにて行った「蓮沼執太のメロディーズ」の公演は、観客がまだ一度も聴いたことのないメロディーを届けるというチャレンジで、蓮沼の盟友ともいえる木下美紗都さん、イルリメさん、そして、敬愛するNegacoさん、高野寛さんをお招きして、ゲストへ書き下ろした新曲連を初披露目するとう、まさに春の芽のような、フレッシュな兼り漂う夜となりました。

この芽をきききっかけに、アルバム「メロディーズ」はスクスクと成長していきまし。自分の声から着想されるメロディーを膨らまし、楽曲に昇華させる作業の繰り返し。こつして生まれた10の珠玉のメロディーズは、一編の作品として花を咲かせました。そうしてまた間もなくやってくる春にあわせるように、あらたな「メロディーズ」が生み出されようとしています。

3月から行く全国ツアーにて、各地のオリジナリティ溢れるシンガーやラッパーへ新曲を書き下ろします。出来上がった曲を、1年前のように、ツアーの本番にてライブパフォーマンス！初披露目します。題して「TRAVELING MELODIES PROJECT」。土地土地の空気をたっぷり吸い込んだメロディたちが、全国で作られ、演奏されていきます。その模様は、J-WAVEを通じて即時的にオンエア。メロディーズ公式サイトでもライブ＆マッピングされています。

春から初夏にかけて、蓮沼執太が軽やかにメロディーを生み出して花を咲かせてゆく様を、ツアーにて、ラジオにて、ウェブにて、お楽しみください。

「メロディーズ」は、はじまったばかりです。

◎各公演の詳細、その他の公演は決定次第メロディーズ公式サイトにてお知らせします！
<http://www.shutanasunuma.com/melodies/>